

【議事】定 38

(3) 諸外国の宇宙政策の状況について

文科省の坂口企画官が資料 38-3-1 (米国 OSTP の新宇宙政策) と資料 38-3-2 (中国宇宙白書) を用い、その前の政策・白書との比較分析などを中心に説明した。政策及び白書の翻訳の部分は説明しなかった。その後下記の質疑応答があった。

青江：アメリカなのですが、これから変わると云った、**驚くようなことは無かったのか**¹

坂口：安全保障の記述を除いて目新しいところは無い。

井口：国という観点から言えばそうなのでしょうが、商業利用が更に協力に進められているように感じる。個人的な解釈かもしれませんが。宇宙観光のニーズはあるが、みな米国に取られてしまっている。**日本も商業という面にもっと注視すべき**²と思うが。

坂口：記述は特に変わっていない。

松尾：有人とロボティック宇宙探査は特記なのか。

青江：感想にしか過ぎないが、安全保障で塗り固められている。

片や日本はとなると、よく考えるべきかもしれない。

井口：**技術は元々オープンなもの**³である。米国では、**基盤技術は**

¹ 自分で確かめることではないだろうか。

² いくら「べき」と訴えても進まないものは進まない。それほど商業的な魅力が無い。ハイリスク・ローリターンでは、誰も手を出さない。それぐらいしか売り物の無いロシアと、資源以外は豊富な売り物を持っている日本は違う。

³ 正しいことであるが、一般論は不要である。無暗に拡散させると拙い技術が詰まっていることを忘れてはならない。

平和利用とは別のところで用意されている⁴。科学技術屋さんだけでは無理がある。総合科学技術会議で宇宙計画の論議が長引いているようであるが、期待しますね。

(4) 大型展開アンテナ小型一部分モデル 2 (LDREX-2) の軌道上実験結果について

JAXA の堀川理事と辻畑プロマネが資料 38-4 (LDREX-2) の実験結果を報告した。アンテナが開く状況について動画が紹介された。質疑応答は簡単に終わった。

松尾：実験が成功したので良かったが、この手の実験の位置付けをはっきりさせておき、直前に騒ぐことの無いように気をつけて欲しい。

(5) H- A ロケット 11 号機の打上げについて

JAXA の河内山理事が資料 38-5 (H- A・F11/ETS-) は既に発表したもので、安全部会の審議を受け打上げ日を決めたということで、その部分だけを説明した。質疑応答は簡単に終わった。

井口：204 は新しいコンフィギュレーションのつもりで取り組んでいただきたい。

JAXA 河内山：そのように考えております。

松尾：このところの打上げは土日が続いているようだが。

JAXA 河内山：衛星の組み込みの作業日程などからそのようになっている。申し訳ない。

⁴ 国防予算が使われているという意味の発言。日本でも防衛庁が管轄するようになれば、文科省と宇宙開発委員会の発言力が落ちるだけとは思わないのだろうか。また、何が「無理」なのだろう。